

たけのこ

2007 FEBRUARY 2 / 第4号



医療法人 久盛会
秋田緑ヶ丘病院

〒011-0911 秋田市飯島字堀川 84 番地 TEL (018) 845-2161 FAX (018) 846-6942
ホームページ <http://www.kyusei.or.jp/>



理念

友情を語り、「生きる喜び」と「希望」を育み、「安全・安心・信頼の医療」を実現します

指針

1. 医療の安全と質の向上に努め、患者さんに信頼される医療を提供します
2. 医療人の育成を図り、医の倫理の高揚に努めます
3. 患者さんの人権と個人の尊厳を守り、親切、丁寧な医療サービスに努めます
4. 社会の変化・医療の進歩に対応できるよう自ら研鑽に努めます
5. 医療を通して、地域社会の一員として貢献できるように努めます



クリーニング仕分け作業風景



これからの精神医療

病院長 武田 忠厚

昨年より精神科病院は二つの大きな問題に直面しています。一つは「通院可能な精神障害者の数値目標」であり、もう一つは「障害者自立支援法」の問題です。一つ目の問題は以前から厚生労働省は全国で「医療の問題でなく」社会的理由で入院中の患者が七二、〇〇〇人あり、病床削減する」方針で秋田県への割り当ては九〇〇床と言われていました。昨年末になり秋田での目標を三九六人と変更されましたが、無論、勝手にこの方針を進めることは出来ないわけで、各病院の関係者の協力が必要なのです。深刻なのは退院させられる人の中には高齢な人や社会的に不利で生活が困難な人が多数含まれており、その人達に生活や活動・仕事などを提供する必要があるとあります。その意味でも障害者の自立を援助する法律の整備が求められていたわけですが、結果的にはそれが非常に困難になったと言わなければいけません。障害者や関係者の批判により、厚生労働省は見直しに着手しましたが、十分だと言うには程遠いものの様に思われます。

地域での精神医療を展開するには、住む場所、日常の行動の拠点、働く場所、医療を受けるためのアクセスを備えていることが必要だといえます。住む場所としてのグループホームや寮、日常の生活活動の拠点、学習の場所としてのデイケアや生活訓練、就労訓練、地域活動支援センター、医療の必要な場合の病院外来、訪問看護など一応の体裁は整ってはいるものの未だ十分とは言えません。特に就業支援や働く場所の不足はこれからの医療を進める上で絶対必要なのですが、今回の自立支援法の下では自分たちの努力以外頼れるものがないというのが現状の様です。

最近読んだ本の中からの患者さんの生の声が聞けます。

「私の世界は広まった。私は日ごとに自信を持つ様になった。十分とは言えないが、自分の力で経済的安定を得た。私は最近七年間で初めて月給の小切手を手にして、額に入れた。無論、現金化しないといけないのでコピーを写し、それを額に入れ家に飾ったわけ。それから(出費を)自分の小切手帳に書き込み、それも小さい額に入れて飾った。私は働くことを通して社会の一員になった。私の孤独は限られたものとなり、友情も持てるだろう。今週末は独りで淋しいが、それも多かれ少なかれ消えていくだろう。」

(Social inclusion of people with mental illness. By Jeffrey & R. Warner)
障害を背負いながら生活している皆に、この様な喜びを味わってもらいたいものです。

マグロの解体ショーの始まりです



大間のマグロ 58kgです



去る十二月七日に平成十八年度の病院祭が行われました。今年も演芸会場においては大間産のマグロ解体ショー（もちろんご賞味頂きました）や寛水会の皆様による民謡、サンバ演奏にカラオケ大会が行われました。患者さんから興味を持ちながら楽しんで頂けるような催し物を提供できたのではないかと思います。模擬店会場においても多くの患者さんに楽しんで頂けるようにスペースを拡大し、今までより利用しやすい環境で提供することができたと思います。その反面うまくいかなかった点については反省点として活かし、年を重ねる毎により多くの方々に満足して頂けるような行事として継続していききたいと思います。



作業療法科主任 忠村 裕

★ 平成十八年度 病院祭を終えて



寒さに耐えて焼き鳥を焼いています

★ ★ ★ 北1病棟看護スタッフです



寛水会の皆様による民謡です

★ 恒例の『のみの市』です。出品物は全て職員によるものです



サンバのリズムが鳴り響きました



患者さんの作品も多数展示しました

リレーこらむ

北京五輪に向けて



医局 早川 和夫

来年の北京オリンピックの野球日本代表監督として、元中日ドラゴンズの選手であり、監督としては同チームと阪神タイガースでリーグ優勝の経験を持つ星野仙一氏が選ばれました。野球は一九八八年のソウルオリンピックから正式採用され、次回の北京を最期に競技種目から消滅します。これまでの五回の大会では日本は惜しくも優勝に手が届いておりません。前回のアテネでは必勝を期し、オールプロ（これってオリンピックの趣旨を考えた場合、いかがなものかとも思えますが？）で望み、予選リーグ（総当たり）を一位で通過しましたが、決勝トーナメントでオーストラリアに敗れ、銅メダルに留まっています。WBC（ワールドベースボールクラシック）で昨年、優勝しているだけにオリンピックで一度も優勝できずに終わるのはとても残念です。率直な印象として、アメリカなどの野球強豪国が

オリンピックに対して、それ程、力を入れていない事もあり日本が北京でもオールプロで固めるのであれば（というよりも、この際だから是非、固めて欲しいです）優勝が一番近い位置にいるのではないかと思います。しかし、決勝トーナメントは一回限りの勝負（いわゆるノックダウン方式）です。野球という球技の性質（相手のピッチャーの能力が高く、出来も良かった場合、点を奪うのが困難であること）を考えると、必勝は困難な命題かもしれません。それでも星野氏は就任会見で「金（メダル）しかいらぬ」と言っていました。かつて柔道の田村亮子（現在は谷亮子）選手が、国民の期待を一身に受けたシドニーオリンピックの前に「最低でも金、最高でも金」と言い、見事に金メダルを獲得しています。自らにプレッシャーをかける形になる発言なのかもしれませんが、言葉は発せられた時から力を持つ場合も多々あります。星野代表監督には不転の決意（政治家が良く使う時の意味ではなく、文字通りの意味です）で頑張っただけと考えます。



栄養科だより



年末の皿盛り

栄養科主任
管理栄養士 菅原 修

入院患者さんの楽しみの最たるものは「食事」であり、ことに精神科においては毎日食べる食事でもそうですが「行事食」への期待が大きい。当病院の行事食は、正月料理、餅つき大会、運動会弁当、野外食、クリスマス料理、年末皿盛り… etc である。

ポイントは、肥満防止、糖質過多にならないように野菜を多く食べてもらう工夫をしている。又、常食以外（粥・キザミ・ミキサー・治療食）の食事にも気を付けなければならないので多種多様である。

栄養科では新しい年を迎えるために、年末に皿盛りを行い、今年の節目として、又、食べてくれる患者さんに感謝し、写真のような食事をつくりました。

平成 18 年 4 月から診療報酬上で「栄養管理実施加算」入院患者の栄養状態の管理、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）対策、冬場のノロウイルス対策などの円滑な実施が求められている毎日です。



常食



ミキサー食

部署紹介



東 1 病 棟
(急性期治療病棟 1：定床 38 床)
のご紹介

東 1 病棟看護師長
長澤 勝雄

私達には、大なり小なりストレスがあり、場合によっては落ちこんだり、イライラすることがあります。ストレスや加齢に伴い精神的に不安定になる等、心理的・社会的要因により濃厚な治療が必要な方が当病棟に入院されています。入院患者さんの年齢は様々ですが、事故防止を最優先に考え、快適な入院生活ができるように努めています。そして、患者さんの状態に応じて一貫した看護が提供できるように、医師・看護師間の情報交換を密に行っています。精神科では入院環境が保護的である一方、それに慣れてしまうと、自ら何をすればいいかという事が、おっくうになります。このような事を予防するため、症状の

改善を見ながら、作業療法・レクレーションを適時行っています。また、病棟内には中庭を設けて、明るく開放的な気分を満喫できるような構造になっています。人との関わり方が精神に影響しますので、スタッフ一同、挨拶と笑顔を絶やさぬよう、そして誠実で優しさのある接遇に心がけています。



当院「壁画」の作成者 H・Tさんの絵画ギャラリー

広報誌第 3 号でご紹介させて頂きました、当院壁画作者の H・T さんによる絵画の数々をご紹介いたします。H さん作成の絵画は当院の様々な場所で飾らせて頂いております。

今回は下記の絵画をご紹介します。



こちらの絵画は外来ホール喫茶コーナーで展示しております。

心療内科



医 局
鈴木 康男

過敏性腸症候群

腸に炎症や潰瘍といった異常が何もないのに、腹痛を伴った便秘や下痢が続く病気を「過敏性腸症候群」といいます。若い人、特に女性に多く、人口の十〜二十％にみられる頻度の高い病気です。ストレスが病気の発生に大きく関与しており、生真面目、神経質などストレスを感じやすい性格の人に発症する病気の一つです。ストレスにより脳や腸の知覚が過敏になり、便秘、下痢、腹痛、腹部不快感などの症状が現れます。ちよつと神経を使っただけでもすぐに腹痛が生じトイレに行きたくなくなり、重症になるといつどこで便意を催すか分からないために、通勤通学の電車に乗れない、会議や授業に出られなくなります。休日や夜間の睡眠には正常に戻ることが多く、このことからストレスの関与が大きいこ

とが分かります。治療としては、まずストレスを軽減することが第一目標です。軽い運動や趣味の時間、十分な休息、睡眠などで心の緊張を解きます。また暴飲暴食を避け、規則正しい食事時間を守ることを心がけます。症状が長引く場合は心療内科や精神科の受診をお勧めします。症状に応じて便秘薬、止瀉薬、胃腸機能調整薬、抗うつ薬、抗不安薬などを組み合わせて使用します。また専門家によるカウンセリングが必要場合もあり、いづれにしても根気強く治療を行い、病気と気長に付き合っていく気持ちが必要です。「腹が立つ」「腹が（い）せする」「腸（はらわた）が煮え返る」など胃腸に関する言葉が数多くあります。胃腸は心の鏡と言われており、ストレスに対して非常に弱い臓器であります。皆さんもご経験があるかと思いますが、恋愛の悩みなどは以ての外でして、嫉妬心や不安、怒りは胃腸に対して強いダメージを与えます。そして恋に悩めるお年頃の私はお腹の調子が…というわけで、心の平静がいかに大切かを教えてくれる病気の一つを紹介いたしました。

病院受診のご案内

◆初診の場合

〈受付時間〉午前 8:45～11:30 まで
 〈受付窓口〉受付・総合案内
 〈診療時間〉平日（土曜日は午前中のみ）
 9:00～12:00
 14:00～17:00



（午後の診察は予約制になります）

但し、救急の場合はその限りではありません。

〈必要なもの〉 保険証

※受給証をお持ちの方は併せて受給者証を提示してください。

◆2回目以降受診（再診）の場合は

〈受付窓口〉外来・再診受付へ
 〈必要なもの〉 診察券と予約券



◆専門外来について

「うつ・ストレス外来」「女性専門外来」「思春期外来」「物忘れ外来」「睡眠障害外来」「てんかん外来」
 こちらの外来診療については完全予約制となりますので受付までお電話下さい。

毎月1回は保険証の確認をさせていただきますのでご提示願います。

◆歯科診療について

平成9年7月より入院患者さんや外来患者さんに利用されて参りました歯科診療室を昨年の10月末で廃止いたしました。
 入院患者さんの歯科診療につきましては、医療法人南秋会の訪問診療などで対応しておりますことをご案内申し上げます。



Q&A



Q 患者さんが心の余裕を持てるような医療であれば、病状の改善に良い傾向をもたらすのではないかと。

A ご指摘のとおりだと思います。当院では、閉鎖病棟であっても東1病棟のように病棟内に中庭を設けたり、外来パティオに植物を置くなどして、出来る範囲で患者さんのリラクゼーションのために工夫をしております。今後も引き続き努力してまいります。

Q トイレにナースコールを設置してほしい。

A 現在計画的にナースコールを設置しております。高齢者の多い病棟や車椅子用のトイレなどに優先的に取り付けております。ご了承ください。

Q 病棟に電子レンジを置いてほしい。

A 当院では入院時食事療養（I）に基づき、通常の食事は適時適温で提供しております。そのため、今回の要望につきましては対応しかなる状況です。その他、何らかの事情で電子レンジの使用をご希望の際は、病棟スタッフにご相談ください。

今後とも不備な点などがありましたら遠慮なくご指摘下さい。

苦情受付について

当病院では、患者さんからの「ご意見、ご質問」をお受けする「意見箱」を設置してあります。設置場所は、管理棟では「パティオ・相談室前」、病棟については各病棟の面会室とデイルームにございます。ご意見等の内容は医療全般に限らず、お気づきの点など、どんな些細なものでも結構です。ご質問を頂いた内容については、よりよい病院を作るための参考とさせて頂いております。

お詫びと訂正

広報誌たけのこ第3号の1P目にありました「壁画」についての内容に一部誤りがございました。

文章8行目の「主治医が壁画を描くことが出来るはず」とあった部分について、正しくは「当時勤務していたDrが海外を訪れた際に、建物へ描かれていた壁画を見て、当院にも壁画が出来ないかとなった。しかし、製作者がなかなか見つからず、以前入院していたH・Tさん（日展などに出品し、数回入選した実績がある）にお願いした」でありました。

関係者の皆様には大変ご迷惑をおかけしました事をお詫びし、ここに訂正させていただきます。

広報委員長 寺門 啓之

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

広報誌の創刊から1年がたちました。年4回の発行ではありますが、編集に携わる機会を与えられた者として、当院の活動を出来るだけ多く広報していきたいと考えております。

そして、願わくばこの広報誌が当院の記録として、将来何らかの形で役立つ事を夢見ております。

広報委員会

こんにちは。新人です！

西二病棟 看護師 田口 香織
 患者さんの対応や、業務の面ではまだまだ不慣れな点も多くありますが、経験を積み重ね、どの患者さんからも信頼されるように頑張っていきたいと思っております。



西二病棟へ配属となり、月より看護師として、

医事課 藤嶋 愛
 外来の患者さんの顔もだいぶ覚えて、一部の患者さんには名前まで呼ばれるようになってきました。いつも笑顔で対応し、気軽に声をかけていただけるような雰囲気業務で行っていきたく思っております。よろしくお願ひ致します。



月から医事課の一員となっており、半年が過ぎようとしています。

